佐藤清明資料保存会会報

No. 3

博物学者 佐藤清明（1905-1998）

佐藤清明資料保存会

里庄町立図書館

2019.9.1.

会 報 第 3 号　もくじ

１．あいさつ	副会長	生宗 脩一	１
２．巻頭論考「佐藤清明と岡山の植物関係者」	顧問	土岐 隆信	２
３．舅･佐藤清明を偲ぶ･･･「母子草」	顧問	佐藤 美清	１３
４．倉敷自然史博物館特別陳列「博物学者佐藤清明を知っていますか？」			１５
５．佐藤清明資料保存会活動記録（2018. 4. ～2019. 3. ）			１９
６．編集後記			２１

表紙写真：第六高等学校理科教室助手時代の佐藤清明（20 代）

あ い さ つ

２０１９年５月１日より元号が平成から令和になりました。折しも平成から令和の時代の移り変わりの時、平成３１年４月２１日より令和元年５月１９日まで倉敷市立自然史博物館において「博物学者佐藤清明を知っていますか？」特別陳列が開催されました。佐藤清明資料保存会・里庄町立図書館と倉敷市立自然史博物館の主催でした。この展示見学会と同時開催の講座により、里庄町は勿論、県内の多くの方々に佐藤清明の業績を周知して頂く強い「発信力」となりました。

また、装いも新たに「里庄の偉人」博物学者・佐藤清明のリーフレットの制作もでき、広く理解いただくツールのひとつが出来たことは特筆すべきことです。展示会の開催や制作に当たっては、顧問の方々の構想力に負うところが大です。また里庄町をはじめ関係者の皆様の絶大なご支援の賜物と感謝申し上げます。

佐藤清明資料保存会の活動「清明を読む会」・「清明研究会」・「展示会」について、この情報は里庄町立図書館のＨＰ「特設サイト」において全国ベースで情報発信できています。最近は外部から情報を提供される事も有ります。

佐藤清明資料の保存に関して、佐藤家の資料を図書館に収蔵し、その資料を保存会メンバーの協力で、撮影をし、データ化を図り資料検索をし易くできる段階に至りました。この収蔵された研究資料を利用するにあたり、その手順・ルールの確立が急がれます。

清明先生は自然に対する熱い想いを持たれ、知的好奇心の強い方で、豊富な知識と正確な調査により植物学・動物学・民俗学など多彩な分野で科学性の高い研究をされました。先生の遺された著述記録及び専門家との書簡など顧問の方々のノウハウを借りて、功績を資料等から学び、後世に継承していく大切さを感じています。

「会報」Ｎｏ３発刊を期に、佐藤清明先生の愛した「キクザクラ」について、佐藤家の穂木を接ぎ木した「キクザクラ苗」を里庄町の公共機関の敷地に、令和元年の記念すべき時、植樹できれば資料保存会の皆さんの願いと今後の活動の励みとなります。どうぞ皆様のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和元年９月

佐藤清明資料保存会副会長

生宗　脩一

巻頭論考

佐藤清明と岡山の植物研究者

顧問　土岐 隆信

１．はじめに

佐藤清明先生に初めてお目にかかったのは、昭和 51 年 10 月 31 日に岡山市半田山で開催された薬草観察会であった。これは、毎年県と県薬剤師会の共催で秋に行われる「薬と健康の週間」の行事の一環として行なわれたものである。参加者は、当時薬学部の講師をされていた佐藤清明先生について半田山を歩き、植物名を教えて頂き、使用法や薬効などの話を聞いた。このときに先生は単語カードに植物名を書かれ、カードの裏に薬効などを記入したものを持参されていた事を思い出す。また昭和 56 年（1981）の春には岡山県植物研究会のメンバーとともに朝日高校に連れて行って頂き、キクザクラの説明を受け、挿し木では増殖は無理であることを教えて頂き、私はこの花を標本にした。

この度、佐藤清明資料保存会が発足したので、佐藤の植物研究についての歴史を探り、多くの発表された論文の整理を行ないたいと考えた。また本県の植物研究についての歴史をたどって見たいと思い、お世話になった先輩諸氏の業績を紐解こうと考えたが、県内各地で活躍された方々の多くは亡くなられ、調査、問合せをすることが難しい状況であった。また、戦前戦後に活躍された方々の研究成果はガリ版刷りで刊行し、同好の方々に配布されたものが多く、公立の図書館などに収蔵されているものも少なく､その所在がなかなかつかめない状態であった。このため下記の著作物については原本が確認できないものが多々ある。この度始まった、佐藤の所蔵していた県内外の者の研究報告書、出版・発行物などの調査保存活動は非常に重要であり、今後の研究に大いに役立つものと思われる。

２．本県に於ける植物研究の歴史

（１）明治時代から大正時代

明治になり、牧野富太郎を初めとし東京や京都からの研究者がたびたび来県し、また、本県で研究を始めた者も採集品について学名の問合せなどで東京の学者などとの交流が始まった。

・.主な刊行物、発見植物について

安井伴市　『美作植物一班』植物学雑誌７巻　1883（明治１６年）
これが本県での最初の報告といわれる。

山本頼輔（沼田頼輔）『岡山県北部地方植物採集記』　植物学雑誌９巻 1885（明治１８年）

大上宇一　『播磨国よりの植物通信』　植物学雑誌 10 巻　1886（明治 19 年）

牧野富太郎「カザグルマ」「バイカモ」の記事『日本植物調査』21 回　植物学雑誌 13 巻（1889）（明治 22 年）吉野善介の名前が出る。

大上宇一　『中国の植物について』　植物学雑誌 20 巻 1896（明治 29 年）

雪吹敏之　『美作植物目録』1901（明治 34 年）

吉野善介　　県内で多くの植物の新発見（後述）

西原（さいはら）一之助　1900（明治 33 年）　高梁中学に着任。

二階重楼（しげたか）　1902（明治 35 年）　高松農学校に着任。

赤木敏太郎　1904（明治 37 年）　新見でホソバナコバイモ発見。1906（明治 39 年）新見でヤマトレンギョウ発見。

牧野富太郎　1906（明治 39 年）来岡し、備前、津山、久世を歩く。

田村亀造　1907（明治 41 年）哲多でビッチュウフウロ発見。

小泉源一　1907（明治 41 年）備中天神山でヒロハニハトコ採集

牧野富太郎　1913（大正 2 年)高梁でジョウボウザサを発見。
1914（大正 3 年）阿哲黒髪山でアテツマンサクを、またシラガブドウを発見。

田代善太郎　1925（大正 14 年）高梁臥牛山の調査を行う。

参考：西原禮之助　　地域植物誌研究 1982（昭和 57 年）

（２）1930（昭和 5 年）の陸軍特別大演習を機に生物採集総動員が行なわれた

1930（昭和 5 年）11 月 13 日から 20 日まで、県南部を中心に陸軍の大演習が行われたので昭和天皇が御来岡になった。この機会に昭和天皇に県内の生物を採集してご覧に入れようと、県下の生徒児童を総動員して 6 月 1，2 日に県下一斉に植物を、7 月 1 日に昆虫を採集した。植物標本は 68 万点、動員延べ人員は 40 万人。昆虫標本は 18 万点、動員延べ人員 28 万人であった。植物の顧問は田代善太郎（京都大学）、吉野善介（高梁市）であり、155 科 1763 種、昆虫は松村松年、岡崎俊太郎を顧問に 38 科 649 種に整理して、岡山県内生物目録にまとめ、ご覧に入れた。

この生物採集総動員が行われたことにより、県下の植物研究者の繋がりが深まり、目録作成などが行われたものと思われる。

その頃まとめられた目録等

守屋護伊知　小田郡植物目録
坪井近三　吉備郡植物目録
佐藤清明　淺口郡植物目録
伊達俊夫　川上郡川上村植物誌
山口國太郎・小坂弘　阿哲郡産植物目録
佐藤清明　岡山県植物目録
佐藤清明・西原禮之助　岡山県植物誌（キク科～ナス科）
岡山縣高松農学校　吉備郡産有用植物誌　昭和 9 年 5 月(1934)
岡山縣吉備郡植物（137 科 1050 種）目録 但 苔葱科以上）1931（昭和 6 年）12 月

（３）戦後

多くの研究者、特に教育関係者が県内各地で調査を行い、同好会の結成や会誌、目録などが多く発表された。その中の幾つかを列挙する。

吉野善介　『備中の植物』　1 号 1953（ 昭和 28 年)1 月～10 号 1958（昭和 33 年）5 月
美作博物同好会『美作の自然』　1 号 1955（昭和 30 年)11 月～9 号 1963（昭和 38 年）
坪井近三　『備前植物仮目録』　1957（昭和 32 年)
『備前植物目録』　1960（昭和 35 年)6 月
土岐嘉充　『矢掛植物誌』　1957（昭和 32 年)

小坂弘　『吉備の植物』No,1　1966（昭和 41 年）~No,11　1971（昭和 46 年）
高田真一　『吉備高原植物目録賀陽地区』1958（昭和 33 年）
『同高山地区』　1963（昭和 38 年）
『岡山県美作植物目録』　1965（昭和 40 年）
『岡山県西部地域の植物分布図譜』1987（昭和 62 年）
『同補遺』　1989（昭和 64 年）
『三室峡の植物』　1991（平成 3 年）
難波早苗　『岡山縣樹木目録』　1960（昭和 35 年）
『岡山大学農業生物研究所所蔵植物標本目録』1980（昭和 55 年）
『岡山縣高梁市臥牛山国有林植物目録』　1955（昭和 30 年）
赤沢都満　『遙照山植物目録』　1960（昭和 35 年）
『岡山県に自生するシダ植物第 1 集』　1961（昭和 36 年）
坪井近三　『岡山県備前植物目録』　1960（昭和 35 年）
中村順平　『弥高地区植物目録』備中町教育研修所　1961（昭和 36 年）
『備中町植物目録』備中町教育研修所　1963（昭和 38 年）
『成羽の自然植物編』成羽町教育研修所　1964（昭和 39 年）
三宅一喜　『備西の植物』付樹種目録 1　1969（昭和 44 年)6 月
大久保一治　『岡山県帰化植物目録』　1961（昭和 36 年)10 月
『岡山県自生植物目録』　1989（平成元年)
岡山県衛生部薬務環境衛生課　『岡山県野生薬用植物目録附岡山県栽培薬用植物』薬用植物調査委員会委員長加藤豊、佐藤清明は委員
岡山県衛生部薬務課監修　『岡山県薬用植物目録』岡山県薬用植物調査委員会発行委員長加藤豊、副委員長西原禮之助、佐藤清明は委員
西原禮之助　『岡山の植物』　1964（昭和 39 年)
『岡山の樹木』　1981（昭和 56 年)
渡辺毅　『新見阿哲の記録』　1976（昭和 51 年)
『続』昭和 54 年（1979)、『第 3 集』　1988（昭和 63 年）
『第 4 集』　1992（平成 4 年）
岡本香　『岡山県産スゲ属植物』　1970（昭和 45 年）
『蒜山のスゲ属植物』　1976（昭和 51 年）
『中国地方における峡谷のスゲ』　1977（昭和 52 年)
『岡山県産スゲ属植物Ⅱ』　1978（昭和 53 年)
岡山植物研究会『岡山県植物研究会誌』　1981（昭和 56 年）～1994（平成 6 年）

３．佐藤清明の経歴と植物研究への取り組みと経歴

ア　経歴

1905（明治 38 年）5 月 9 日に誕生し、1998（平成 10 年）9 月 17 日に逝去した。

1923（大正 12 年）金光中学を卒業の後、第六高等学校に奉職し、生物学教室に在籍しているが、その校内には植物園があり、植栽されていたキクザラを自宅で接木するなどしているので、植物研究への取り組みが本格的に行われたと思われる。1980（昭和 55 年）11 月の勲五等双光旭日章受章の功績調書には第六高等学校に勤務したことが契機となり、吉野善介、二階重樓及び赤木敏太郎の指導を受けた事で植物学の基礎作りが確立したと記

載されている。1925（大正 14 年)には福岡県小倉中学校理科教師となる。1931（昭和 6 年）～1987（昭和 62 年）清心高等女学校に奉職、生物教師となる。清心女子大学講師。その後、岡山女子短期大学、岡山大学薬学部、農学部、医学部などの講師を勤める。
1980（昭和 55 年）　勲五等双光旭日章を受章する。

イ　キクザクラの育成

旧制第六高等学校（六高）の校庭にあったキクザクラを、六高で助手をしていた佐藤が里庄村の自宅のサクラに接木していた。1945（昭和 20 年）6 月 29 日の岡山大空襲で六高のキクザクラは灰燼に帰したが、里庄村のキクザクラは命脈を保った。昭和天皇の第四皇女順宮厚子内親王（岡山池田家に降嫁）の御紋章に選ばれており、1952（昭和 27 年）に佐藤はご来岡の天皇にキクザクラを献上した。また昭和 28 年には、両陛下は佐藤が育成したキクザクラを後楽園の延養亭の前庭にお手植えされた。その他、佐藤の育成したキクザクラは岡山大学や六高記念館にも植えられ、毎年花を咲かせている。

ウ　著作物など

『よき母』　　1933（昭和 8 年）10 月 8 日発行

これは佐藤が島田ミヤコと結婚したときの挨拶状とともに、「非常時の現下、殊に薄給の貧書生にはこれといふ、ご披露の途も無い。そこで所謂冗費を節して、この貧弱なるパンフレットを作り、親しき方々へ記念の為に贈り、一つにはご披露に代え、二には私のみならず廣く世の母親に向って感謝の意を表する事にした。御利用を乞へば幸甚である。」と・・・・藤井大将の母を初め東西古今の母の愛をたたえ、最後に「あゝ人間此の世に出現して以来幾千年。そして且つ母たりし女性果して幾百億。それ等の力こそ誠に生命の根源であった。文字通り全人類の慈母であった。」と叫んで筆をおいてある。と小坂弘が『まんさく No,9』 p.36~37　1934（昭和 9 年）1 月　に紹介している。

この度、佐藤の残した資料を調査したものの中から、この『良き母』が発見された。これは２０頁の小冊子であるが、内外の著名な人の母親５３人のエピソードが１ページから１８頁まで、個々の人物ごとに分けないで続けて書かれている。これに添付された挨拶状にはご入用の向へは実費１０銭で頒つとあり、姉妹篇として『よき妻』を続刊の予定と書いているが、発刊されたかどうかは不明である。

佐藤は多方面にわたり多くの論文を発表している。ここでは、植物関係のみ取り上げる。

1934(昭和 9 年)5 月『リムルス』を発刊。

『植物の方言と訛語』　岡山文化資料　第 1 巻第 5 号　　1929（昭和 4 年）7 月 17 日
『植物の方言と訛語（２)』岡山文化資料　第 1 巻第 6 号　1929（昭和 4 年）9 月 25 日
『植物の方言と訛語（岡山県補遺)』岡山文化資料　第 2 館第 1 号
1929（昭和 4 年）11 月 2 日
『植物雑信（１)』　まんさく No.2　p.18~20　1930(昭和 5 年)
『植物採集目録』　まんさく No.2　p.22　　1930(昭和 5 年)
『岡山縣産新植物』　　1930(昭和 5 年)
『六月頃に咲く山野の植物（一）県下の生物採集動員に因みて』　山陽新報
1930（昭和 5 年）6 月 1 日
『六月頃に咲く山野の植物（二）県下の生物採集動員に因みて』　山陽新報
1930（昭和 5 年）6 月 2 日
『六月頃に咲く山野の植物（三）県下の生物採集動員に因みて』　山陽新報

1930（昭和 5 年）6 月 3 日
『備中戯食植物考』　岡山文化資料　第 3 巻第 1 号　1930（昭和 5 年）8 月 26 日
『備中塩生植物目録』　岡山文化資料　第 3 巻第 2 号　1930（昭和 5 年）9 月 26 日
『続岡山県植物方言』　岡山文化資料　第 3 巻第 3 号　1930（昭和 5 年 12 月 15 日）
『岡山縣植物方言辞典』1930（昭和 6 年）8 月 15 日発行　非売品　50 部限定
『聖上陛下と生物学』　教育論叢　第 26 巻第 1 号　1931（昭和 6 年）7 月
『岡山県ニ於けるいたどりノ方言ノ分布』　植物研究雑誌 7 巻 6 号 1931（昭和 6 年）
『全国馬鈴薯方言集（予報）』　土俗趣味社　1931（昭和 6 年）4 月 10 日
『全国イタドリ方言集（豫報）』愛媛県周桑郡郷土研究彙報　愛媛県周桑郡　第 10 号
p.1~22　1931（昭和 6 年）4 月 30 日
『全国はこべ方言集』　植物研究雑誌 7 巻 9 号　1931（昭和 6 年）
『全国カヤツリグサ方言集』　方言と土俗　第 1 巻第 12 号　1931（昭和 6 年）
『岡山縣の天然記念物（1）』まんさく No.3　p.29~35　1931（昭和 6 年）
『南備地衣類目録』　同上　p.35~36
『備中の海濱植物』　同上　p.39~40
『地方博物學者列傳叢書　中国　吉野善介氏篇』　1932（昭和 7 年）1 月 1 日
『近事片信』　まんさく No. 6　p. 75~80　1932（昭和 7 年）
『日本人に献名せる動植物の属名　博物科叢話』　文教書院　1932（昭和 7 年）
『淺口郡植物誌』　リムルス学会　p. 23　1932　（昭和 7 年）
『岡山縣に於ける蘚苔植物の研究』　中等教育部總会研究発表　p 50－63
1932（昭和 7 年）12 月 4 日
『岡山県蘚類目録』　趣味の植物学界　9 p　1933　（昭和 8 年）
『岡山縣蘚類目録』　備作教育　第 633 号岡山縣教育会　p 42－52
1934（昭和 9 年）8 月 31 日
『岡山縣産地衣類目録』　静岡県小笠郡理科同好会会報第 1 號別刷　1933（昭和 8 年）
96 種の地衣を発表。
『近事片信（承前）』　まんさく No. 7　p. 119~128　1933（昭和 8 年）
『大演習と岡山縣植物』　まんさく No. 8　p. 1~8　1933（昭和 8 年）
『近事片信（承前）』　まんさく No. 8　p. 12~22　1933（昭和 8 年）
『近事片信（承前）』　まんさく No. 9　p. 16~21　1934（昭和 9 年）
『新讀本に現はれたる生物教材』　まんさく No. 9　p. 29~30　1934（昭和 9 年）
『近事片信』　まんさく No10　p.4~12　1934(昭和 9 年)11 月
『全国菫方言集』　方言　第 5 巻第 1 号　1935（昭和 10 年）
『神秘の方言オホバコ考』　植物趣味　趣味の植物学界　第 4 巻第 1 号　p15~19
1935（昭和 10 年）5 月 5 日
『神秘の方言馬鈴薯考』植物趣味　趣味の植物学界　第 4 巻第 2 号　p12～14
1935（昭和 10 年）8 月
『フォーリー逝きて満二十年』植物趣味　趣味の植物学界　第 4 巻第 2 号　p.28～30
1935（昭和 10 年）8 月
『近事片信』　まんさく No11　p.6~18　1936（昭和 11 年）4 月
『瀬戸内海産海藻目録』　文献書房　1936（昭和 11 年）
『岡山縣に於ける菌類の研究』リムルス 4 巻 3 号 1937（昭和 12 年 3 月）

『岡山県植物目録１』　リムルス　1937(昭和 12 年９月
『甲浦高島の植物調査』　参修高島考　水原岩太郎　御津郡一宮村
1940（昭和 15 年）12 月 10 日
『臥牛山植物目録』(難波早苗と共著)　1950（昭和 25 年）11 月
『後楽園の植物（１）』　岡山春秋　岡山春秋社　第１巻第１号　p.46~47
1951（昭和 26 年）4 月 13 日
『後楽園の植物（２）』　岡山春秋　岡山春秋社　第１巻第２号　p.31~33
1951（昭和 26 年）6 月 1 日
『岡山県の巨樹老樹』　吉備植物　吉備植物研究会　第 7 号　p.3~6
1952 (昭和 27 年)9 月
『随筆　備中植物誌』　備中の植物　第 2 号　p.1~3　1954（昭和 29 年）
『随筆　備中植物誌（続)』備中の植物　第 3 号　p.12~15　1954（昭和 29 年）
『随筆　備中植物誌（続)』備中の植物　第 4 号　p.1~2　1955（昭和 30 年）
『随筆　備中植物誌（続)』備中の植物　第 5 号　p.3~4　1955（昭和 30 年）
『随筆　備中植物誌（続）成羽の植物化石』備中の植物　第 6 号　p.20~22
1956（昭和 31 年）
『随筆　備中植物誌（９）阿知の藤』　備中の植物　第 7 号　p.8~10
1956（昭和 31 年）
『随筆　備中植物誌（１０）穴門山の社叢』備中の植物　第８号　p.4~6
1956　（昭和 31 年）
『随筆　備中植物誌（１１）多行松の自生地』備中の植物　第 9 号　p.8~9
1957（昭和 32 年）
『随筆　備中植物誌（１２）吹屋みつば自生地』備中の植物　第 10 号　p.3~~5
1958（昭和 33 年）
『岡山県の竹と笹』　富士竹類植物園目録　富士竹類植物園　第 3 号　p.48~56?
1958（昭和 33 年）
『天然記念物緊急調査　岡山県現存植生図説明書､岡山県植物所在地図説明書』
1966（昭和 43 年）3 月
『吉野善介氏の業績』吉備の植物 No.3　p.1~5　1967（昭和 42 年）
『岡山県現存植生図説明書』　p.31　1968.3(昭和 43 年)
『岡山県植物所在地図説明書』　1968.3(昭和 43 年)
『倉敷市の天然記念物』　倉敷市教育委員会　1969.3　(昭和 44 年)
『岡山県に自生する固有植物』　清心中学校・高等学校紀要　1969（昭和 44 年）
『樹草談義（一)』樹と草　岡山の樹と草の会　第 2 号　p.1~2　1971（昭和 46 年）1 月
『樹草談義（二)』樹と草　岡山の樹と草の会　第 3 号　p.1~5　1971（昭和 46 年）3 月
『樹草談義（三)』樹と草　岡山の樹と草の会　第 4 号　p.1~11 1971（昭和 46 年）6 月
『樹草談義（四)』樹と草　岡山の樹と草の会　第 5 号　p.1~9　1971（昭和 46 年）10 月
『樹草談義（五)』樹と草　岡山の樹と草の会　第 6 号　p.2~9　1972（昭和 47 年）1 月
『樹草談義（六)』樹と草　岡山の樹と草の会　第 7 号　p.2~6　1972（昭和 47 年）6 月
『岡山県に自生する固有植物』発見と当時の挿話　植物手帖　ｐ2－3
『岡山県に自生する固有植物』発見と当時の挿話（２）植物手帖　第 121 号ｐ6－7
1976（昭和 51 年）7 月 10 日

『岡山県に自生する固有植物』発見と当時の挿話（３）植物手帖　第 122 号ｐ2－3
1976（昭和 51 年）8 月 10 日
『世界の国花』　清心中学校・高等学校紀要　1977（昭和 52 年）
『岡山県に自生する固有植物』発見と当時の挿話（４）植物手帖　第 133 号ｐ4－5
1977（昭和 52 年）7 月 10 日
『岡山県に自生する固有植物』発見と当時の挿話（５）植物手帖　第 134 号ｐ2－3
1977（昭和 52 年）8 月 10 日
『岡山県に自生する固有植物』発見と当時の挿話（６）植物手帖　第 135 号ｐ4－5
1977（昭和 52 年）9 月 10 日
『岡山県に自生する固有植物』発見と当時の挿話（７）植物手帖　第 136 号ｐ2－3
1977（昭和 52 年）10 月 10 日
『岡山県に自生する固有植物』発見と当時の挿話（８）植物手帖　第 145 号ｐ2－3
1978（昭和 53 年）7 月 10 日
『世界の国花』　清心中学校・高等学校紀要　1979（昭和 54 年）
『佐伯町の天然記念物』　和気郡北部教育委員会　1976(昭和 51 年)
『矢掛町の天然記念物　第１輯』　岡山県教育委員会　1972(昭和 47 年)
『加茂川町の天然記念物　第２輯』　岡山県教育委員会　1972(昭和 47 年)
『倉敷市の天然記念物　第２輯』　倉敷市教育委員会　1972(昭和 47 年)
『津山市の天然記念物第１輯』津山市教育委員会　1973(昭和 48 年)3 月
『吉永町の天然記念物』吉永町中央公民館　1978（昭和 53 年 4 月）
加藤豊、花田親兵衛が予備調査を行う。
『岡山県野生植物目録』清心中学校・高等学校紀要　1979(昭和 54 年)
『県南　里庄町の湿原フロラ』岡山県植物研究会誌第１号　p.15~21　1982（昭和 57 年）
安原清隆と共著
『岡山県野生植物目録』　1979（昭和 54 年）9 月
『岡山県野生植物目録』　羊歯･蘚･苔･地衣　1982（昭和 57 年）12 月
『岡山の花と木』　岡山の自然と文化　1　岡山県郷土文化財団　p.44~53
1982（昭和 57 年)
『岡山県野生植物目録』　岡山県植物研究会誌第２号 p.5~49　1983（昭和 58 年）
『岡山後楽園主要植物解説』　出版年不明

４．岡山県植物研究会の発足

佐藤清明の叙勲祝賀会が 1981（昭和 56 年）5 月 31 日に岡山市内のホテルニュー岡山で開催された。その時の佐藤の挨拶の中に、植物同好者が大同団結して岡山県植物誌を編さんしてはとのサジェッションがあり、新たに会を結成しようという声が起こった。まず、会の設立のため、その頃活動をされている者や研究実績のある者をリストアップし、岡山県天然記念物緊急調査員（昭和 42 年）を中心に案内が行われた。叙勲祝賀会及びこの会の設立には西原禮之助が大変尽力し、加藤豊、楠原良三、花田親兵衛、井木長治が協力した。若輩の土岐が準備などを手伝ったが、これにより多くの諸先輩の知己を得た。案内状を出した人は、上記の調査員であった徳山銕也、押柄慎吾、井上立、難波早苗、高山敬三、岳山利夫、本位田隣太、加藤豊、光畑之彦、福島和彦、花田親兵衛、大久保一治、成瀬豊、小坂弘、中村順平、三宅一喜、堀口正志、渡辺義行､花田起志平､原田昭子、佐藤清明の２１名であり、また、昭和 56 年頃に植物

研究に携わっている者（奥田拓男、中原清士、西原禮之助、古屋野寛、井木長治、宗田克巳、高田真一、楠原良三、小畠裕子、波田善夫、小川大右、佐藤好人、杉原操、金高正典、土岐隆信、鷹取晟二、三好教夫、赤堀隆一郎、臼井英治、日原誠介、花田靖之助、安原清隆、難波英生、土岐嘉允、大森長朗）の２５名にも案内された。

昭和 56 年 9 月 15 日､岡山県植物研究会の設立総会が、岡山市立オリエント美術館講堂において開催され、出席者全員の推挙により佐藤が初代会長に就任し、役員も決定した。会の事務局は岡山市南方３－５－２０の西原の会社におかれた。岡山県植物研究会誌は第 1 号（1982 年 3 月）から第 13 号（1994 年 7 月）まで、岡山県植物研究会会報は第 1 号（1982 年 4 月）から第 29 号（1992 年 10 月）まで発刊された。1994（平成 6 年）会長の西原禮之助の死去により、この研究会は自然解散となり、岡山県植物誌は未完成となった。

５．佐藤清明と交流のあった県内の植物研究者

ここでは叙勲を受けるための功績調書には植物についての指導を受けた人として記載されている吉野善介、岡山県立高松農学校教諭の二階重楼、新見市の赤木敏太郎の３名に加え佐藤清明と交流が深かったと思われる研究者 5 名を取り上げ、主な功績等を記載する。

＊　①生年、没年　②経歴　　③植物関係事項　　④著作物

（1）吉野善介

① 1877（明治 10 年）5 月 5 日生～1946（昭和 39 年）12 月 11 日宝塚市雲雀ヶ丘精常園クリニック療養所において歿。

② 上房郡高梁町本町７３番地で、薬店経営の吉野宗七の長男として生まれる。1892（明治 25 年）高梁高等小学校卒業。家業の薬店を手伝いながら、近村へ注文取りに行く道々で植物の変化に心を惹かれたことが、植物採集の動機となった。そして 1900（明治 33 年）高梁中学へ来任の西原（さいはら）一之助の指導を受け、また西原を通じて牧野富太郎の教えを受けた。1932（昭和 7 年）、株式会社武田長兵衛商店研究部に入社した。

③ 1920（大正 9 年）　『川上郡の植物』川上郡誌　川上郡教育会編

1929（昭和 4 年）　『備中植物誌』を刊行。　『補遺１』を昭和 5 年、『補遺２』を昭和 6 年に刊行。　補遺編発刊に佐藤清明が尽力した。

1930（昭和 5 年）9 月 26 日　岡山文献研究会『備中植物発見誌』
岡山文化資料第 3 巻　第 2 号

1932（昭和 7 年）　『備中植物発見史』

1935（昭和 10 年）1 月『近畿植物短報（其 2)』植物研究雑誌第 11 巻第 1 號

1945（昭和 20 年）　高梁に帰郷し植物研究を行う。（昭和 21 年 3 月 31 日定年退職）

1948（昭和 23 年）　第 1 回岡山県文化賞を受賞。

1948（昭和 23 年）　増訂備中植物誌

1953（昭和 28 年）　吉野植物研究所を創設。機関誌として『備中の植物』を発刊した。
『備中の植物』1 号 1953（昭和 28 年）9 月～10 号 1958（昭和 33 年）5 月を発行。
（1，2 号の発行人は難波早苗となっている。）佐藤清明は、2 号から 10 号まで毎号寄稿している。

＊吉野善介が県内で発見した植物

吉野善介は採集の記録として「植物雑記」（明治 44 年 11 月より昭和 62 年 12 月まで）と題したノートと「採集記録」（明治 43 年 8 月昭和 62 年 9 月まで）と題し

たノート、「植物雑纂」（昭和３０年）を残している。これらには、採集した植物名や学名が記録されており、牧野富太郎が新見において発見した「あてつまんさく、しらがぶだう」についても記載がある。

ナツアサドリ、チョウジガマズミ、キビノクロウメモドキ、ナガバヤクシソウ、ヨシノアザミ、ビツチウアザミ、マツムライヌノヒゲ、キビノボロスゲ、キビノノダケ（ヒノノノダケ）ミコシギク、ケタガネソウ、ビッチュウヤマハギ、オオタチカモジ、ミズニラ、サイコクヌカボ、ヒメヨツバハギ、ゲンカイツツジ、キビサクラタデ、ジョウボウナシ、ナリワナシ、キビナツナシ、オオヤハズナシ、オクマンダナシ、キビザクラ、ビッチュウフウロ、カザグルマなど発見した。

参考：「岡山県の植物研究家　吉野善介」　小山鷹二　薬史学雑誌３６（２）p.113~129（2001）

（２）　二階重楼（にかいしげたか）

①　1859（安政６年）生~1932（昭和７年）11 月歿

②　山口県三隅町出身、巴城学舎卒。

1902（明治 35 年）高松農学校教諭着任。

1904（明治 37 年）徳島農学校に転任。

③　佐藤清明は、吉野善介とこの二階重樓について、「我が岡山縣の植物學史を編する場合があったら、何人と雖も吉野善介氏、二階重樓氏の二氏は何を措いても第一番に特筆大書せねばならぬ。」書いている。そして、二階重樓の業績として、マツムライヌノヒゲ、キビノミノボロスゲ、ビッチュウヤマナシ、キビノダケ、ミコシギク、ケタガネソウ、ミヅニラ、オホタチカモジ、ビッチュウヤマハギ、サイコクヌカボ、クロバナサワフタギ、キクバノニガナを、明治 35 年から 36 年にかけての採集としてあげている。（まんさく No.7　p.123～125　1933（昭和８年）

（３）赤木敏太郎

①　1879（明治 12 年）生～1944（昭和 19 年)歿

②　阿哲郡草間村姫原に生まれる。高梁中学校、岡山師範学校二部卒。阿哲郡内の小学校教員、校長を勤め、昭和 16 年、草間村長となる。

③　チョウジガマズミ、ホソバナコバイモ、ヤマトレンギョウを発見。

（４）小坂弘

①　1904（明治 37 年）生～1999（平成 11 年）没

②　阿哲郡野馳村大野部に生まれる。

1924（大正 13 年）　岡山師範学校卒業、同年唐松小学校訓導から 1961（昭和 36 年）野馳小学校長で退職するまで新見市、阿哲郡内で小学校に勤務した。

哲西町文化財保護委員長

1977（昭和 52 年）勲五等瑞宝章を受章。

新見市名誉市民

③　吉備博物同好会を主宰

『まんさく』1 号 1930（昭和５年）～11 号 1936（昭和 11 年）発行。佐藤清明は 3 号、6 号から 11 号まで毎号寄稿している。

吉備植物同好会を主宰、岡山植物同好会、吉備の植物同好会を主宰。
鯉が窪湿原の湿性植物群落の調査は特筆すべきであり、阿哲郡などの植物の調査を行った。
阿哲郡植物並蝶蛾目録　　山口国太郎と共著

（５）難波早苗

① 1916（大正 5 年）生～1998（平成 10 年）没

② 上房郡豊野村出身
1932（昭和 7 年）新見農林学校卒
岡山県職員となり農事試験場、県下の農業改良普及所に勤務。1969（昭和 44 年）県を退職。
植物について、吉野善介の指導を受ける。
1949（昭和 24 年）　水田畑地雑草圖譜　岡山縣立農事試験場内　朗友会発行
1949（昭和 24 年）　備中植物研究第 1 号
1950（昭和 25 年）　臥牛山植物目録　佐藤清明と共著
1951（昭和 26 年）3 月　臥牛山國有林植物目録 佐藤清明と共著　新見営林署
1960（昭和 35 年）　岡山県樹木目録
1980（昭和 55 年）　岡山県高梁市臥牛山国有林植物目録
1993（平成 5 年）　岡山県内に自生する特殊な植物

③ タカハシテンナンショウの発見 1952（昭和 27 年）高梁市
大久保一治、古屋野寛と難波早苗の３名は県下をくまなく歩き、植物の観察を行なった。

（６）横溝熊市

① 不詳　～1977（昭和 52 年）10 月 27 日歿

② 淺口郡里庄村里見
薬種商を営んでいた。

③ 1954（昭和２９年）鴨方北方の山地でエヒメアヤメを発見した。
小坂弘が『まんさく』の中で、「氏の植物標本蒐集熱は非常なもので、本業の薬種商は殆どなげうってでも後半生を採集のために費して学界に貢献されやうとの真剣な努力は、実に涙ぐましいものがある」と賞賛し、また、備中南部、北部、伯耆大山、備後北部など採集され、多数の標本を蔵されていると書いており、横溝氏は国内の植物壱万数千種の中、先ず第一期は 6,000 種を目標に集めたいと言っているとも書いている。
＊『まんさく　No.8』　p.31　　1933（昭和 8 年）10 月 1 日

④ 著作物
『薬用植物漢和名辞典』　50 部印刷。
『岡山縣の薬用植物』
『植物腊葉標本所持品目録』　1932（昭和 7 年 9 月 2 日）
『植物腊葉標本所持品目録　補遺其一』　1933（昭和 8 年 12 月）
『石鎚山登山記』　まんさく No.9　p.22~25　1934（昭和 9 年）
『エヒメアヤメ備中に産す』　備中の植物 N0.4　p.8~9　1955（昭和 30）
『フウトウカズラとナミキソウ』吉備の植物 No.1　p.13　1966（昭和 41 年）
『笠岡諸島とその周辺の植物』吉備の植物 No.3　p.11~12　1967（昭和 42 年）

（7）坪井近三

① 不詳

② 都窪郡吉備町出身

高松農学校。山陽学園には昭和 25 年から昭和 35 年まで講師として勤務。

③ 1957（昭和 32 年）10 月　備前植物仮目録

1960（昭和 35 年）6 月　岡山県備前植物目録

（8） 西原禮之助

① 1915（大正４年)11 月 27 日生～1994（平成 6 年）4 月 4 日没

② 岡山市出身。

1939（昭和 14 年）　早稲田大学商学部卒

1941（昭和 16 年）　陸軍経理学校丙種学生卒業。レイテ島より生還。

元お多美鶴酒造株式会社社長

岡山市文化財保護審議会長

③ 1967（昭和 42 年)10 月湯原ダム湖畔の横川谷、日尾谷において、昭和天皇皇后両陛下に現地の植物についてご進講する。

牧野富太郎をはじめとする東京や京都の植物学者、大学関係者との太い繋がりを持っていた。酒造会社の経営や多くの公職に就きながら、西原の会社に会の事務局を置き、岡山県植物研究会第２代の会長として植物研究者の会合や観察会などの世話を良くした。

1963（昭和 38 年）　岡山の植物　日本文教出版株式会社

1981（昭和 56 年）　岡山の樹木　同上

６．まとめ

上記８名以外にも、佐藤清明と交流があったと考えられる者が多数いる。しかしながら、年月が経過しそれらの方々を知っている人も少なくなり、また地域での植物調査の報告書や論文等については所在が不明であることが多く、個人情報の尊重等により、調査は困難を極めた。今後とも、資料の発見に努め､佐藤清明の功績を明らかにし､今後の植物研究の一助にしたい。また、これを機に岡山県全体の植物研究史を調査したいと考えている。これをまとめるにあたり、高山敬三氏、岡本泰典氏にご教示、資料の提供を賜りました。厚くお礼を申し上げます。

母　子　草

顧問 佐藤 美清

主人を亡くし途方に暮れていた。思い立って、主人の写真を持ち四国のお寺を訪ねていた。その頃、一本の電話があった。久しぶりの生宗澤・脩一ご夫妻からだ。お伺いしたいとのこと。「清明先生のことを調べたい」とおっしゃる。話は全てそこから始まった。今ではそれが発展し、現在のような形になりました。

天国の舅がどのように思っているか、知る由もありません。しかし里庄の文化向上のため、皆様が立ち上がり、努力して下さっていることは本当に頭が下がります。

さてこのたび、舅のことを家族の立場から、何か書いて下さい、と言われ、拙い私ですが、佐藤家の中で過ごした日常の様子を少し書いてみました。

私が 50 年程前、佐藤家を初めて訪問。赤レンガの門を一歩入る。そこには、造られたお庭ではなく、どこか懐かしい昔に返ったような庭と邸宅だった。

（佐藤邸と菊桜）

コロコロと木の独楽のついた障子貼りの玄関の戸。座敷には、番傘が並び、提灯、薙刀が掛かっていた。廊下は花器の棚が並び、沢山の花器、道具があった。外には、20 本ほど入る傘立て、そして蘇鉄とかなり大きな菊桜が育っていた。

舅の書斎は別棟。外の白壁は目立たないように刷毛で黒く塗られていた。空襲から逃れるためだと聞いた。（この別棟は、舅亡き後、1 ヶ月もしないうちに、土台が本の重さに耐えられなくて傾き始めた。慌てて壊した。今思えば、貴重な資料があったと思われるが、どうすることもできない。舅の仕事をよく理解していなかったことを、申し訳なく思っています。）

敷地の奥には、大きな銀杏の木が 2 本。その奥には、さらに大きな榎があった。秋には、この榎が実を結び落下。その音は、赤レンガの門まで、雨音のように響いていた。江戸時代には、街道の一里塚として植えられたもので、昔の人は、その 4 ㎞先の榎を目標に、旅をされたものらしい。

銀杏も 150 年くらいのもので、秋には大きな実をつけ、辺りに独特の香りを放っていた。（この大木達も伐採された。鎌倉の鶴岡八幡宮の大銀杏が倒れたのが、きっかけだった。地球温暖化や気候変動により、何が起こるか分からないので、そうせざるを得なかった。特に、民家が近いため、危険を感じていた。お清め塩とお酒を奉り、足場を組んで、数日かかって、2 回に分け実行した。）

庭には、井戸が２つもあり、自然がいっぱいだった。柿の木が６～7 本、大きな富有柿が沢山とれた。蕗・三ツ葉・芹・茗荷・千振・雪の下・ドクダミ・野蒜・濱菅・全て自然体に、所狭しと生えていた。春には、竹藪から筍がニョキニョキ顔を出す。筍が出る頃は孫に掘り方を教えていた。

夏には蝉がたくさん出てきて、栃の木や南京ハゼには何十匹と留まり、手づかみでも取れる。夕方になると蝉の羽化が始まる。それを、舅は孫達に観察させ、子ども達も喜んで見ていた。

ドクダミは舅の元気のもとだったかも知れない。大きな容器にドクダミを乾燥させ、土鍋で煎じてよく飲んでいた。好き嫌いはあまりなかったが、ケチャップは嫌いだった。だから舅が県北など泊まりがけで出か

けた時は、姑はケチャップを入れたチキンライスを作って食べているようだった。

舅の書斎には、大きな机があり、資料や本が山のように積まれ、書類で埋め尽くされていた。時折、県から電話が入ると、すぐ岡山へ出掛けていた。汽車の切符は半年間の定期を購入し、１日に何度も岡山へ足を運ぶこともたびたびだった。

夜の就寝は早く、8 時には床に入る。朝は誰よりも早く起きる。あまり早いので、私たちはその時刻を知りません。朝早くから仕事をしたせいか？40 歳代で総入歯となり、「その時には、本当に悲しかった。ところが年を寄せると歯医者へ行かなくて済み、今では、よかったと思うようになりました。」と述懐されていました。

目は非常に良く、最後まで眼鏡なしで、新聞雑誌を読んでいた。私たちには、40 才を過ぎると、白内障の予防の目薬をさした方が良いです･･･と言って、清心の教え子の薬局から目薬を買ってきて沢山くれました。

家の行事は、お盆と正月に娘さんの家族とともに楽しみました。百人一首をする時、上の句を読むのはいつも舅。掛軸の漢文も孫達に読んで聞かせ、説明をしていた。お誕生会の時は、いつもケーキを買ってきて、楽しそうでした。「小学一年生」とか、その子に合ったあった本も、プレゼントしてくれた。子供達は、楽しみに待っていた。

私も、舅には大変かわいがられた。当家に来て、間もない頃、「庭でも散歩しませんか。」と言われ、2 人でゆっくりと庭を散策。その時、「これが、母子草。父子草もあるんですよ。」と教えてくれました。私には、この舅の一言が、生涯忘れる事ができません。

舅にとっては、今までいろんな出来事があったであろう。しかし、常に前向き、凛としておられました。何も知らない嫁の私にも何一つ注文もつけず、お願いとか、言い訳もせず、そっと母子草を教えてくれた。私は、もうそれで充分でした。

母子草は、庭のあちこちにあります。花がビロードのような葉に包まれている姿が、子を思う親の気持ちを表しているらしい。自分の置かれた立場を考え、未熟ながら努力してゆこうと思いました。今でも、庭いじりをする時、母子草を見ると舅をなつかしく思い出しています。

舅・姑も年を寄せてくると、庭の手入れも、だんだん私の方にウェイトがかかるようになった。その頃、濱菅が勢いよく庭中蔓延していた。どうしたらよいか迷っていた。ご近所さんが、「この草は早く取り除かないと大変ですよ。」と言われる。辛抱強く、取り除くのに、一生懸命でした。それを見ていた舅は、「その草はいくら取っても無くならないんですよ。この辺りは、海辺だったんだから。」と言う。濱菅は、30cm 位下に球根があり、その又下に孫の球根がある。とても強い草だと分かりました。

舅は、90 才を過ぎると、門から外へは出なくなりました。「皆んなに、迷惑をかけるようになると、いけない。」と言う。体は元気だったので、時々鍬を持って、庭の草取りをしていた。

散髪も、お天気のよい時、「しましょうか？」というと、「はい、お願いします。」と言って道具を出し、終わったら、バリカンの手入れは、毎回、自分で行う。手のかからない舅でした。

外へ出なくなったので、日中は寂しかろうと、熱帯魚を飼った。いろんな色の魚が元気よく泳いでいた。その姿を見て、「あんなに動き回って羨ましいなあ。私も、もう一度でよいからあゝいう風に、動き廻ってみたいなあ。」といわれました。

南方熊楠の時代にいた人だから、舅もフンドシでした。晒し布で何十枚もフンドシを縫ったのも、なつかしい思い出です。

自然を愛し自然を大切にした人でした。この先、どのような形で自然が残っていくのか、その実態を調べ、次の世代へと委ねて行けたら舅も喜ぶ事と思います。

倉敷市立自然史博物館における「特別陳列・記念講演」

博物学者佐藤清明を知っていますか？

特別陳列 2018. 4. 06. ～05. 10. 記念講演：2019. 5. 05.

特別陳列「博物学者佐藤清明を知っていますか？」の開催に寄せて

佐藤清明（１９０５～１９９８）は、岡山県浅口郡里庄町出身の博物学者です。

平成３０年６月に発足した「佐藤清明資料保存会」（事務局：里庄町立図書館）では、郷土の偉人佐藤清明の顕彰活動に取り組んでおり、この度の特別陳列「博物学者佐藤清明を知っていますか？」では、その成果の一端を紹介させていただくことになりました。

開催にあたりご尽力くださった「佐藤清明資料保存会」をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、この展示を機に多くの方々に佐藤清明を知っていただき、また、佐藤清明に関する情報等をお寄せくださることを願っています。

倉敷市立自然史博物館長　髙嶋　幸慶
里庄町立図書館長　　中尾　茂男

展示内容

佐藤清明の人と業績（パネル６枚）
（内容は、以下 18～20 ページに掲載）

柳田国男・牧野富太郎からの書簡（はがき）　３点
佐藤晴明の『現行全国妖怪辞典』（オリジナル）
スケンク博士から贈られた貝類標本　８点
植物標本　牧野富太郎採集のササの標本　１点
友人や佐藤清明本人採集の植物標本　９点
佐藤がフィールドワークで使用した遺品　14 点　等

佐藤清明植物標本コレクション

佐藤清明は、長年にわたる研究・教育活動の中で，自身の採集や各地の研究者との交換によって、約１万点におよぶ植物標本を収集した。

標本の採集年は、１９００年代から１９６０年代までの約６０年間である。北海道から沖縄にいたる日本全国はもとより，戦前期の朝鮮半島・台湾・中国東北部（旧満州）など，海外の標本も含まれている。

標本の採集者は佐藤自身のほか，全国各地のアマチュア研究者たちが名を連ねている。さらに最近の調査で、日本を代表する植物学者、牧野富太郎(1862－1957)の採集標本が含まれることも判明し注目される。

本コレクションは，佐藤没後の１９９９年に倉敷市立自然史専物館に寄贈された。現時点では，まだ一部しか整理・登録ができていないが，第二次世界大戦をはさんだ時期の貴重な標本が見つかる可能性が高い。

今回は，この膨大なコレクションの中から、希少植物の標本や、佐藤の収集活動と交流の広がりを実感できる標本などを中心に展示している。

展示物最終確認作業

妖怪辞典・書簡・貝類標本

植物標本・清明遺品

記念講演：演題「佐藤清明と柳田国男・牧野富太郎」（ 講師：木下浩 顧問、岡本泰典 顧問 ）

講演後のギャラリートーク

里庄の偉人

博物学者 佐藤清明（さとうきよあき）

日本で初めての妖怪事典『現行全国妖怪辞典』出版
植物学 動物学 民俗学など多彩な分野で活躍

発行：佐藤清明資料保存会
平成31年3月1日

佐藤清明の生涯

佐藤清明（さとうきよあき）は、明治38年（1905）5月9日岡山県浅口郡里庄村（現・里庄町）里見に佐藤亀三郎・ヤスエの長男として生まれる。大正12年（1923）金光中学校（現・金光学園）を卒業し、第六高等学校の助手をしながら、教員免許を取得する。大正14年（1925）福岡県小倉中学校の理科教師となるが1年後、結核を患い帰郷する。昭和6年（1931）清心高等女学校（現・清心女子高等学校）の生物科の教師となり以来56年間の長きにわたり、教員生活を全うする。昭和8年（1933）に結婚し、二男一女をもうける。昭和20年（1945）里庄町に帰る。昭和23年（1948）から岡山県文化財保護審議会委員として、県下の文化財を調査した。各種標本の収集と調査研究を生涯にわたって続けた。博物学の権威で、教育・自然・文化の面で多大な功績を挙げた。「里庄が生んだ知の巨人」と言われる所以である。平成10年（1998）9月17日永眠。享年94才。

妻・長男・長女と共に
昭和24年（1949）

近水園にて 昭和52年（1977）

【略歴】
- 大正12年（1923） 金光中学校卒業
- 大正12年（1923） 第六高等学校助手
- 大正14年（1925） 福岡県立小倉中学校教諭
- 昭和3年（1928） 岡山県生石高等女学校教諭、岡山県生石教員養成所教諭
- 昭和6年（1931）～62年（1987） 清心高等女学校（現 清心女子高等学校）教諭、清心女子大（現 ノートルダム清心女子大学）講師
  （その後、県立保育専門学校・県立岡山工業高校・関西学園・岡山労災看護学院等兼任）
- 昭和26年（1951）～43年（1968） 岡山女子短期大学講師
- 昭和37年（1962）～47年（1972） 作陽女子短期大学講師
- 昭和33年（1955）～60年（1985） 岡山大学農学部講師
- 昭和45年（1970）～49年（1974） 岡山大学医学部講師
- 昭和50年（1975）～58年（1983） 岡山大学薬学部講師

【栄誉】
- 昭和52年（1977）11月 岡山県知事表彰（岡山県私立学校永年勤務）
- 昭和53年（1978） 6月 文化庁長官功労章受章（文化庁10周年記念）
- 昭和54年（1979）11月 私立学校連合会理事長表彰（30周年記念）
- 昭和55年（1980）11月 勲五等双光旭日章受章
- 昭和58年（1983） 1月 山陽新聞賞受賞

受勲時の写真 昭和55年（1980）

【主な著書】
- 『博物科叢話』（1932） 文教書院
- 『岡山県博物風土記1,2』（1948） 山陽新聞社
- 『岡山県重要文化財図録2』（天然記念物篇）編集（1954） 富士出版社
- 『現行全国妖怪辞典』（方言叢書）（1935） 中国民俗学会
- 『天然記念物調査録 全50巻』（1948～1954）
- 『岡山県植生図・主要動物植物図33岡山県』（1970） 文化庁
- 『鴨方町史 本編 第4節 動物と植物』（1990） 鴨方町

など多数

佐藤清明と柳田國男

佐藤と柳田國男（1875～1962）との出会いは昭和4年（1929）、佐藤が25歳のとき、柳田が桂又三郎と島村知章が主催する『岡山文化資料』第5号に「唾を」を寄稿しているが、同じ号に佐藤は「植物の方言と訛語」を寄稿し、そこから二人の交流は始まった。翌年柳田の出版した『蝸牛考』初版（昭和5年7月）の序文冒頭に、「（前略）又は近頃岡山県に於て、島村知章君佐藤清明君等の集めて居られる動植物名彙などを見ると、（後略）」と「近くの不一致、遠くの一致」に通じる点を評価するとともに、佐藤の名を挙げてその活動を認めている。

土俗座談会　前列中央が柳田國男、前列左端が佐藤。昭和6年（1931）

佐藤はその後、『岡山文化資料』第2巻5号（昭和5年5月）で「岡山県に於ける「イタドリ」の方言分布論（予報）」を発表し、柳田から評価を得ると、その後次々と全国の方言を集めた方言集を発表する。それは馬鈴薯やハコベ、メダカや蟻地獄といった博物学的なものだけでなく、ジャンケンや片足跳びといった民俗学的な事象も含まれている。佐藤家に残る柳田からの手紙には佐藤の結婚を祝福するものなどとともに、柳田の手許にあるカマキリやメダカの方言データを使用してもよいという記述も見られ、学問的な深いつながりが推測される。

日本で初めての妖怪事典『現行全国妖怪辞典』

昭和10年（1935）、『現行全国妖怪辞典』が刊行された。現在確認されている中で日本全国の妖怪名を集めてまとめた本はこれが初めてで、柳田の「妖怪名彙」が昭和13年（1938）から『民間伝承』に掲載されていることからもその早さがわかる。佐藤は日野巌の『動物妖怪譚』（大正15年）を読んで妖怪に興味を持ち、全国の妖怪名の方言を収集してカードにまとめ、昭和10年に刊行した。佐藤はこの書のなかで34の県と地域から360件の妖怪を紹介している。例えば岡山の妖怪で「妖怪名彙」にも掲載されている「脛（すね）コスリ」は「犬の形をして雨の降る晩に通行人の股間をこすって通る。岡山県小田郡（一二三四）」と掲載されている。妖怪辞典の最大の謎がカードの存在である。佐藤は序で「記述の下の番号はカードの目次で、それを引くと尚詳細の戸籍が判明する。」と記しているが、そのカードは現在発見されていない。おそらく岡山空襲で灰燼に帰したものと思われる。

『現行全国妖怪辞典』

佐藤清明の研究成果

佐藤は植物学・動物学・民俗学などの研究成果を多くの著作物に著し、雑誌や会報などに寄稿した。

『博物科叢話』

『岡山春秋』

『倉敷昆虫同好会会報』

『後楽』

『植物手帳』

『備中の植物』

佐藤清明と南方熊楠

和歌山県田辺在住ですでに博物学者として知られていた南方熊楠(1867～1941)と佐藤の交流は、昭和6年から8年まで頻繁な書状のやりとりから分かる。佐藤が地元の冨有柿を送ったりしているほか、佐藤は昭和6年と7年に岡山県内で採取した粘菌を熊楠に送っている。佐藤はそのころ動植物などの全国版方言集を多く発表しており、方言学のかたわら本来の植物学の研究にも取り組んでいたことがわかる。一方で、熊楠も弟子の樫山嘉一が虫こぶについて問い合わせてきたとき、自分は専門外ということで佐藤を紹介するなど深い交流が続いた。また佐藤は、大阪在住の友人高橋小太郎とともに、晩年の熊楠を直接田辺まで訪ねている。訪問の内容は不明だが、この面会が佐藤に与えた影響は大きく、こののち植物学の研究に傾倒していくとともに、熊楠が昭和16年に死去したのちも佐藤は高橋家を拠点に何度も和歌山を訪問している。

南方熊楠和服正装
南方熊楠顕彰館（田辺市）所蔵

南方熊楠宛書簡 昭和7年（1932）7月1日 南方熊楠顕彰館（田辺市）所蔵
〈佐藤が熊楠に、近況報告や博物学への思いについて述べている。〉

清明が愛したキクザクラ

後楽園の延養亭前にキクザクラが植えられている。この桜は、宮中において育成された御所桜の一種とされる八重桜で、多くの特徴があり100枚から300枚の花弁があり、花形は球状である。この桜は一時絶えたと言われていたが、明治後半に、旧制第六高等学校（六高）大渡忠太郎教授が校庭の武道場横で育てていた桜を、六高で助手をしていた佐藤が、昭和17年（1942）、里庄村（現・里庄町）の自宅のサクラに接ぎ木をしていた。岡山大空襲で、六高のキクザクラは、灰燼に帰したが、里庄村のキクザクラが命脈を保った。キクザクラは昭和6年（1931）御誕生の順宮厚子内親王（昭和天皇の第四皇女、岡山池田家に降嫁）の御紋章に選ばれている。昭和27年（1952）、昭和天皇、皇后両陛下がご来岡されたとき、佐藤は天皇陛下にキクザクラを献上している。昭和37年（1962）、両陛下は、佐藤が提供したキクザクラを延養亭の前庭にお手植えになった。六高記念館、岡山大学農学部前（現在は本部正面前に移植）に植えられたキクザクラも佐藤が自宅に保存していた樹が元になっており、今も毎春花を咲かせている。

キクザクラ

主な佐藤清明ゆかりのキクザクラ

佐藤家	六高記念館
後楽園	たけべの森公園
岡山大学	

佐藤清明と牧野富太郎

牧野富太郎（1862-1957）は、高知県出身の日本を代表する植物学者である。生涯に1,500種以上もの新種記載や，名著『牧野日本植物図鑑』の出版など，植物分類学の分野で多大な業績を挙げる一方，全国の民間研究者と植物標本や情報の交換を行い、各地で開かれる植物講習会の講師を務めるなどして，彼らの育成にも尽力した。佐藤清明もその教えを受けた一人である。

昭和初期、当時20代であった佐藤は植物方言名の収集・研究に精力的に取り組み、牧野が発行する『植物研究雑誌』にもイタドリやハコベの方言調査報告を投稿していた。牧野の佐藤宛書簡には、研究上の助言や要望（例えば、方言名は発音通りに文字化することなど）が丁寧に記され、佐藤の活躍に期待する牧野の姿がうかがえる。さらに、佐藤の植物標本コレクションには、牧野から譲渡された竹笹類の標本が50点も含まれており、両者の親密な交流の様子を伝えている。

若き日の佐藤は、偉大な植物学者の指導を仰ぎつつ研鑽を積み重ね、将来の博物学者への道を歩み始めていたのである。その過程で佐藤は牧野から何を学び取り，自らの研究にどう反映させていったのか。佐藤自身の遺した資料からの新たな発見が待たれる。

昭和12年（1937）牧野から送られた年賀状

昭和6年（1931）5月13日付の牧野の佐藤宛書簡（イタドリの方言について）

牧野が佐藤に贈ったネマガリダケの標本（倉敷市立自然史博物館蔵）

教育者としての佐藤清明

佐藤清明は昭和6年（1931）から,昭和62年（1987）までの56年間、清心女学校・清心女子高等学校に生物科の教師として勤務した。手作りの掛け図・カラースライド・8ミリフイルムを使用して、大きな声でわかりやすく授業する独特のスタイルで、生徒に非常に人気があった。佐藤は教員生活を通して、生徒達に、身の回りの全ての生きとし生けるものに興味を持ち、観察する心を説いた。佐藤の博物学の精神は、現在の清心女子高等学校などに脈々と受け継がれている。

昭和6年（1931）の清心高等女学校教員の集合写真。後列右から2番目が佐藤。

清心女子高等学校での佐藤（年代不明）立っているのが佐藤

清心女子高等学校・中学校が発行する「紀要」には、「伯耆大山の昆虫相」（1968）、「岡山県に自生する固有植物」（1969）、「岡山県における固有動物」（1971）、「世界の国花」1977・1979）、「岡山県野生植物目録（1980）、「岡山県産昆虫類目録」（1982）、「岡山県産昆虫類目録—脈翅類」（1984）、「岡山県産昆虫類目録－蜻翅類」（1986）などの論文を発表している。

佐藤清明が関わった天然記念物の一部

佐藤の研究は、観察や調査から得られた詳細なデータを積み上げ考察するフィールドワークが主体であり、県下の天然記念物の指定審査を行い、適切な保護保存策を指導した。一連の指定物件は、国指定天然記念物の鯉ケ窪湿生植物群落をはじめ、動物関係ではカワシンジュガイ、ヒメボタルなど、植物関係では黄金杉、阿知の藤、住吉島の樹林など、地質関係では浪形岩、八丁畷準平原面など30件で、旧制度指定を加えると100件を超える。

カワシンジュガイ『岡山県重要文化財図録』より

鯉ヶ窪湿生植物群落（新見市提供）

ヒメボタル（新見市提供）

八丁畷準平原面（吉備中央町提供）

浪形岩『岡山県文化財総合調査報告10』より

出典『岡山県の天然記念物Ⅰ』渡辺義行著

佐藤清明資料保存会（里庄町立図書館内）〒719-0301　岡山県浅口郡里庄町大字里見2621番地
TEL.0865-64-6016　FAX.0865-64-6017　E-mail : slnet@slnet.town.satoshi.okayama.jp

佐藤清明資料保存会設立総会　（2018．6．14．里庄町立図書館にて）

事前の諸活動（清明さん展・清明研究会等）をへて、佐藤清明資料保存会が設立されました。会則・組織・メンバー等の詳細は、会報１号に掲載しています。

会長あいさつ

設立理事会

佐藤清明資料保存会 設立メンバー

佐藤清明資料保存会活動記録（2018.4.～2019.3.）

本会の立ち上げに至る経過と、会報０号（発刊準備号）に掲載いたしました平成 30 年度末までの清明研究会の活動については割愛し、以降の歩みを簡単に列記いたします。

① 清明を読む会・図書館講座・図書館企画展

2018/04/28　第１回清明を読む会「キクザクラを見に行こう」

清明が保存に力を尽した「キクザク」を新企画「清明を読む会」のスタートといたしました。

講師　國忠征美氏（樹木医、日本さくらの会専門委員）

國忠氏は、清明宅と岡大構内のキクザクラと関わられ、昨年９月からの土地の土壌改良や、樹勢回復作業の様子などをお話になりました。

講話の後、佐藤邸に移動し、開花中のキクザクラを前に、菊ザクの管理の様子を拝見しました。「地域の人々に興味を持ってもらった木は生き残る。ぜひ、キクザクラに興味を持ってこれからを見守ってください。」と話されたことが心に残りました。

2018/07/01～2018/08/30「第２回里庄のせいめいさん展」

展示内容　牧野富太郎からの手紙・年賀状の写真、『里庄の文化財』の原稿や写真。

戦後岡山で発行された総合誌で清明も執筆した『岡山春秋』（昭和 26 年～34 年）。

清明が愛した希少植物について、里庄町内で新たに撮影した写真。

2018/08/09「第２回妖怪講座」講師：佐藤清明資料保存会顧問の木下浩先生

佐藤清明資料保存会の青少年育成事業として「第２回妖怪講座」を開催（図書館２階・視聴覚室）し、小・中学生 20 人が参加し、郷土の伝説や妖怪話を楽しみました。

内容：「里庄町の湯の池の鬼」、「金光町の千年比丘尼」「井原市のスネコスリ」「里庄町の大なら峠のばけもの」「金光町の安倍晴明伝説」などを聞き、地図で場所を確かめました。

「今でも本当にいる妖怪は何ですか」「足守川で何人もの人が〝あずきとぎ〟を目撃した」などの楽しい質問や妖怪の目撃情報までもが寄せられました。

佐藤清明の「備中南部に於いて信ぜられる妖怪の一覧表」を手に、木下先生のお言葉「皆さんと同じ里庄に生まれた清明さんのことをもっと知って下さい」･･･心に残りました。

2018/09/02～　巡回展「清明さんを知っていますか？展」

里庄町立図書館第２回「里庄のせいめいさん展」に続き、より一層広く佐藤清明の業績を知って頂くために、金光図書館、笠岡市立図書館、浅口市公民館のご協力を得て、巡回展を開催。

2018/10/14　「冊子『木之子島物語』贈呈式と著者を囲む会」

佐藤清明の盟友髙橋小太郎氏令嬢髙橋壽美江様の著書『木之子島物語』が、里庄町・笠岡市・浅口市に寄贈され、図書館にて里庄町・浅口市の贈呈式を挙行。式後の著者を囲む会で、「清明さんとは、生涯を通してのおつきあいで、毎年のように大阪の髙橋邸を訪れ。和歌山の民俗学者南方熊楠を訪問する時も我が家を拠点にされた。」と、交流の一端を紹介された。

2018/10/20　第 3 回清明を読む会「佐藤清明と牧野富太郎」

講師：佐藤清明資料保存会顧問の岡本泰典氏。

岡本氏は、倉敷市立自然史博物館友の会会員で、佐藤邸に残されていた佐藤清明宛ての牧野富太郎書簡に着目し清明研究の先鞭をつけられた方で､新情報に､参加者一同が耳を傾けました。

2018/12/8　第 4 回清明を読む会「清明さんの思い出」

講師：元ノートルダム清心学園教諭 渡辺義行氏。

渡辺氏は、清明さんの同僚として 20 年間、清明氏の薫陶を受けられ、天然記念物のフィールドワークにも多く同行された方で、清明さんの生き生きとした姿を伝えてくださいました。

2019/2/16　第 5 回清明を読む会

「佐藤清明と難波早苗～岡山に明治神宮の森を作ろうとした人々～」

講師：佐藤清明資料保存会の稲田多佳子顧問

2019/4/21～2019/5/19「博物学者佐藤清明を知っていますか？展」･･･ 詳細は P.15～１８参照

会期：2019 年 4 月 21 日(日)～5 月 19 日(日)最終日は午後 4 時まで。

記念講演：5 月 3 日(金)午後 2 時～午後 4 時(第 1 回清明を読む会を兼ねる)

2019/5/3　第 1 回清明を読む会

倉敷市立自然史博物館で開催中の「博物学者佐藤清明を知っていますか？展（特別陳列・記念講演・ギャラリートーク)」を「第 1 回清明を読む会」と兼ね、各地から 80 名参加。

2019/7/20　第 2 回清明を読む会「清明先生の思い出」

講師：元清心なでしこ同窓会会長 庄司志津子さん。(詳細は、会報 4 号に掲載予定。)

2019/07/01～2019/08/30「第 3 回里庄のせいめいさん展」

展示内容：佐藤清明の業績の紹介、日本で初めての妖怪事典『現行全国妖怪辞典』オリジナル本の展示に、新たに「清明さんの人物交流図」･「岡山県下のキクザクラ地図」を加えました。

②　清明研究会の記録

2018/04/28「第 6 回清明研究会」

佐藤清明のリーフレット（原案）の検討。佐藤清明資料保存会（仮称）設立総会実施計画。

2018/05/19「第 7 回清明研究会」

佐藤清明資料保存会設立総会協議事項の検討。会報（0 号）についての意見、アドバイス。

2018/06/09　「第 8 回清明研究会」

設立総会の役割分担。「里庄のせいめいさん展」の展示内容。岡大構内のキクザクラの樹勢回復作業経過報告と「キクザクラ基金」の提案。　情報提供　木下浩顧問・岡本泰典顧問

2018/06/24　「佐藤清明資料保存会設立総会」

会長に加藤泰久町長を選出。本年度の事業計画案・予算案が承認された。

2018/07/16　「第 9 回清明研究会」

資料保存会の入会手続き・会費徴収。

情報提供　木下氏から「『岡山春秋』における佐藤の論文リスト」。

岡大のキクザクラ樹勢回復作業の報告。「キクザクラ基金」趣意書回覧。

9 月の金光図書館での巡回展の内容について。

2018/0８/18「第 10 回清明研究会」

「第２回里庄のせいめいさん展」経過報告。保存会の事業実施計画。

９月からの巡回展搬入・搬出について。清心学園が所蔵する佐藤清明の資料について。

2018/09/23「第 11 回清明研究会」

巡回展の報告と確認。「高橋壽美江様を囲む会」打ち合わせ。会報１号の進捗状況。

情報提供 岡本顧問より『変形菌』『天覧昆虫標本解説』

木下顧問より　南方熊楠記念館へ訪問について、古本市出品の清明の著書について

土岐顧問より　南方熊楠と佐藤清明について

稲田顧問より　『聖上陛下と生物学』について。

2018/10/20「第 12 回清明研究会」

報告　髙橋壽美江様を囲む会と『木之子島物語』贈呈式・岡大のキクザクラの現況報告。

情報提供　江田顧問より「佐藤清明の名刺について」。稲田顧問より「新村出氏関係の情報」。

土岐顧問より「佐藤清明と岡山の植物関係者」。

撮影した清明資料の分類について意見交換。日本十進分類法（NDC）の採用等

2018/12/8「第 13 回清明研究会」

巡回展の経過報告。倉敷市立自然史博物館共催特別展の企画。新リーフレットの制作。

情報提供　土岐顧問より　岡大のキクザクラの近況報告。

稲田顧問より　桂又三郎著『吉備郷土食』紹介。(S19.3 発行）安江氏所有。

『変わり学読本』紹介。

2019/1/13「第 14 回清明研究会」

倉敷市立自然史博物館共催特別展の企画について。新リーフレット編集の進捗状況。

2019/2/16「第 15 回清明研究会」

倉敷市立自然史博物館特別陳列「博物学者佐藤清明を知っていますか？」展について。

新リーフレットの進捗状況。会報№.２の内容。ノートルダム清心学園へ訪問について報告。

髙橋壽美江様に清明資料の英文翻訳依頼について報告。清明資料の写真撮影の状況報告。

2019/3/21「第 16 回清明研究会」

特別陳列について　展示物の決定、搬入・搬出の当番、催事のＰＲ方法ほか。

佐藤家のキクザクラ由来の植樹。総会の日程等。

2019/06/01 新リーフレット『佐藤清明』完成・会報 2 号発行

新リーフレット・会報 2 号が完成しました。執筆頂いた方々ありがとうございました。

リーフレットも会報も図書館にあります。里庄町立図書館特設サイトでもご覧頂けます。

＜編集後記＞

巻頭に、土岐隆信顧問の「植物研究者をしての佐藤清明の業績と交流のあった方々」について俯瞰する論考を頂き、また、佐藤清明ご長男佐藤公康氏（開業医・佐藤内科）夫人佐藤美清様からご家庭での清明さんについて心温まるご紹介を頂きました。ご多忙の中、今後の私どもの活動の糧となり励みとなる記事を頂きありがとうございました。　（理事 会報担当・佐藤泰徳）

佐藤清明顕彰特設サイト

佐藤清明資料保存会会報　No. 3

発行日　令和元年９月１日
発行者　佐藤清明資料保存会・里庄町立図書館
　　会長　加藤泰久(里庄町長)　館長　中尾茂男

住　所　719-0301 岡山県浅口郡里庄町里見 2621
電　話　0865－64－6016

ホームページ：http://www.slnet.town.satosho.okayama.jp
E メール：slnet@slnet.town.satosho.okayama.jp